



——農業という世界に飛び込むことへの不安はなかったのでしょうか。

最初は不安だらけでした。

右も左も分からない土地で、どんな野菜が作れるかも分かりませんでしたしね。釧路の農家に視察に行ったときも、「釧路管内で野菜農家として食っていくなんて無理だよ」と言われて、ちょっと心が折れかけました(笑)。でも、一方では、やってやるぞという気持ちが強くなりました。

それからはずっと、白糠町にとって適地適作な農作物は何かを考え続けていました。作る農作物がなかなか決まらず、正直、何度も東京に帰ろうと思いましたが、今は目標がはつきり定まったので、あとは実現できるような突き進んでいくだけです。

——目標を聞かせてくれませんか。

白糠をレタスの名産地にすることです。大前産業と連携して、再来年から本格的に栽培していく予定なので、まず

地元の人に手を取ってもらおう。レタスはすべて白糠産にし、ゆくゆくは首都圏に販路を拡大していくのが目標です。

また、生産規模が大きくなれば人が集まってきて雇用も拡大し、人口減少対策にもつながっていくと思います。

これは自分の夢でもありませんが、協力隊員としての役目である「白糠町の農業の魅力を発掘する」という目的にもつながるので、まっすぐ進んでいきたいと思っています。

——レタスにしたのはどうしてですか。

レタスは野菜の中でも特に栽培が難しいとされている野

菜ですが、比較的冷涼な気候を好む性質なので、夏でも涼しい白糠町の気候によく合っています。

当初は、じゃがいもやブロッコリーをメインにしようと考えていたのですが、初期投資の問題などで難しいということが分かったので、作る野菜についてはしばらく悩んでいました。

その時期に、東京農業大学のオホーツクキャンパスに研修に行かせてもらう機会があり、北海道でレタスの産地化

が進んでいることを知りました。また、成功しているレタス農家の方々からいろいろな話を聞くことができました。それで、レタスを作ることに

決めました。

自分は何か新しいことを始めてパイオニアになるよりも、すでにあるものをアレンジするほうが性格的に向いていると思うので、レタスの一大産地である長野県や道内で成功しているレタス農家のやり方を自分なりに試行錯誤しながらアレンジしていきたいと思っています。

——齊藤さんにとっての農業とは。

人生のすべてです。農家になるのが長年の夢でしたので、独立して自分の農園を持つことができたなら、白糠町で農家として生きていきたいと思っ

ています。

地域おこし協力隊の仕事は、町のために何ができるか考えることだと思っていますので、自分の夢をかなえるのもそうですが、根本は「まちづくりのため」ということを意識しながら活動しています。

——町民の皆さんに向けて一言お願いします。

これから作っていくレタスを、まずは白糠町の方にたくさん食べて欲しいです。そこから釧路管内、旭川や札幌と徐々に広めていきたいと思えますので、そのときは、町内外に広くPRしてくれると、うれしいです。



大前産業のビニールハウスで栽培中のレタス。この状態から約4～5週間でスーパーなどでよく見慣れた球形の状態まで成長します。



### プロフィール

齊藤 貴光 (さいとう・たかみつ)  
東京都出身。東京農業大学卒業後、スーパーの八百屋や市場、農業法人などの職を経て本年6月1日付けで白糠町の地域おこし協力隊員(農業分野)として着任。